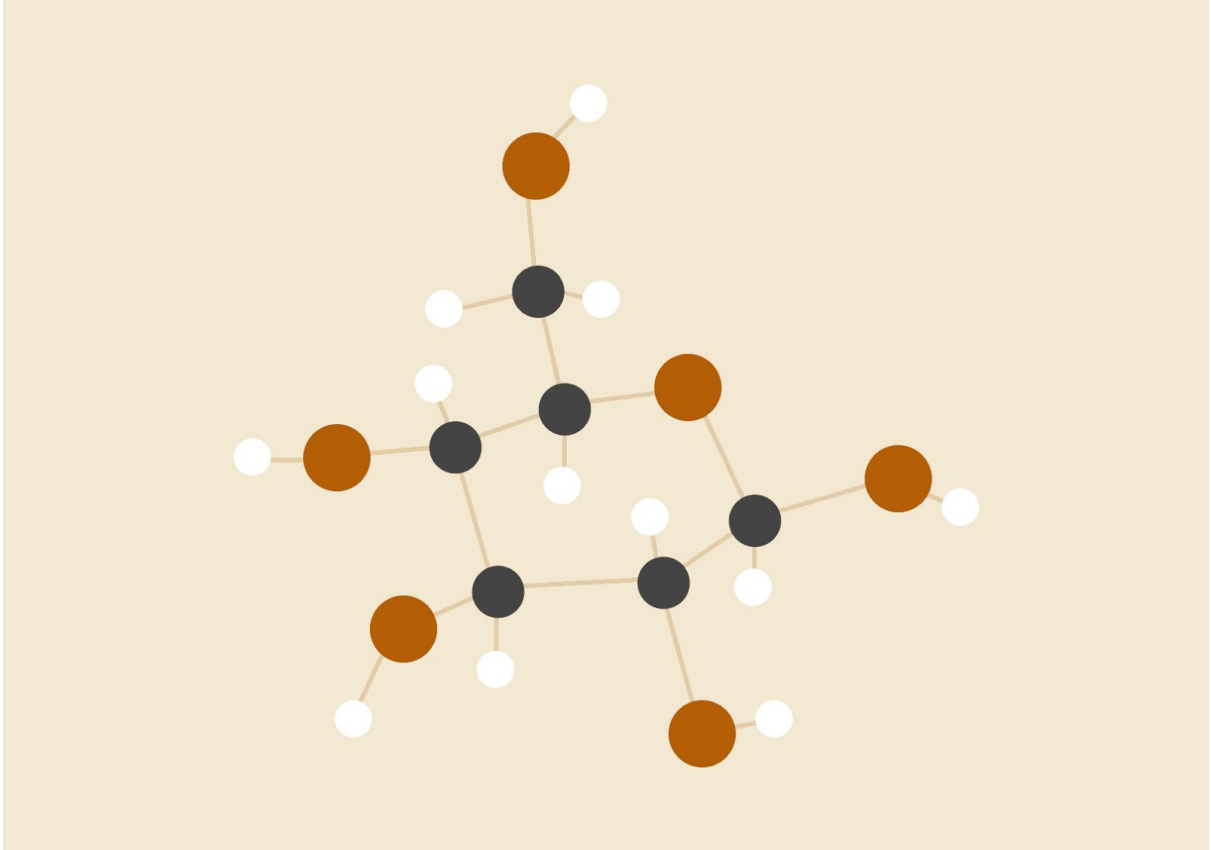


# 検査値の見方



## 患者様へ

1. 基準値（正常範囲）とは、健康である多くの人を示す検査値の範囲です。施設によって使用する機器、試薬の違いなどがあり、多少異なります。
2. 患者様ご自身の検査結果の右側に付いている記号は、「L」は基準値より低い、「H」は基準値より高いことを指しています。
3. 病気の診断は、尿、血液検査だけでなく、診察の所見（病状）、あるいは他の検査と総合的になされます。
4. この冊子に記載してある検査の意味や病名は一般的なものであり、全ての患者様に当てはまるわけではありません。ご自身の検査結果についての不明な点は、主治医にご相談くださるようお願い致します。また、掲載されていない項目についても主治医にご確認ください。

	項目名 [ 略称 ]	基準値	一般的な検査の意味
蛋白	総蛋白 [ TP ]	6.7-8.3 g/dL	血清中に含まれる蛋白(タンパク)の総量です。 栄養状態や、肝臓、腎臓機能の指標となります。
	アルブミン [ ALB ]	3.8-5.2 g/dL	肝臓で作られる蛋白です。 値が低い場合は肝硬変、劇症肝炎などが推測されます。
肝機能	総ビリルビン [ T-Bil ]	0.3-1.2 mg/dL	肝炎、肝硬変、胆石など肝・胆道疾患と溶血性疾患で上昇し、黄疸の有無がわかります。
	直接ビリルビン [ D-Bil ]	0.4以下 mg/dL	肝臓で処理を受けた後のビリルビンです。 肝細胞障害や肝内胆汁うっ滞、閉塞性黄疸時に上昇します。
	AST [ GOT ]	10-40 U/L	肝臓、骨格筋、心筋、赤血球に含まれる酵素です。 肝疾患、心筋梗塞などで上昇します。
	ALT [ GPT ]	5-40 U/L	主に肝臓に存在する酵素です。 肝疾患(急性肝炎、慢性肝炎、肝硬変、アルコール性肝炎)で上昇します。
	LD [ LDH ]	115-245 U/L	体内のほとんど全ての組織に存在する酵素です。 心筋梗塞、肝疾患、悪性腫瘍などで上昇します。
	アルカリ フォスファターゼ [ ALP ]	115-359 U/L	肝臓、骨、小腸、胎盤などに存在する酵素です。 主に、肝疾患、骨疾患の指標となります。
	γ-GT [ γ-GTP ]	男 70以下 U/L 女 30以下 U/L	肝臓や胆道などに障害があると血中に出てくる酵素です。 アルコール性肝障害や胆汁うっ滞の指標となります。
	コリン エステラーゼ	男 242-495 女 200-459 U/L	肝臓で合成される酵素で、肝機能低下や低栄養状態で低下します。
膵臓	アミラーゼ [ AMY ]	37-125 U/L	膵臓や唾液腺から分泌される消化酵素です。 急性・慢性膵炎や耳下腺炎などで上昇します。
心機能	CK [ CPK ]	男 62-287 U/L 女 45-163 U/L	心筋や骨格筋に存在する酵素です。 急性心筋梗塞、筋疾患などで上昇します。
脂質	総コレステロール [ T-CHO ]	150-219 mg/dL	血液中の脂質の主成分です。 増えすぎると虚血性心疾患、動脈硬化症、糖尿病などの危険因子になります。
	HDL コレステロール	40-86 mg/dL	善玉コレステロールと呼ばれ、低値になると動脈硬化になりやすくなり、心筋梗塞などの冠動脈疾患や脳血管障害を起こす一因になります。
	LDL コレステロール	70-139 mg/dL	悪玉コレステロールと呼ばれ、動脈硬化の危険因子の一つです。 高値が続くと心筋梗塞などの冠動脈疾患の原因になります。
	中性脂肪 [ TG ]	50-149 mg/dL	体の皮下脂肪の主成分です。増えすぎると動脈硬化の危険因子になります。 食後では高値になるため空腹時に採血します。
腎機能	尿素窒素 [ BUN ]	8.0-22.0 mg/dL	蛋白質の最終産物で腎臓から排出されます。腎機能障害の時上昇します。 また消化管出血などでも上昇することがあります。
	クレアチニン	男 0.61-1.04 mg/dL 女 0.47-0.79 mg/dL	腎臓や筋肉の病気を調べる検査です。高値の時は腎機能が悪化している可能性があり、筋肉が萎縮する病気では低値になります。
	尿酸 [ UA ]	男 3.7-7.0 mg/dL 女 2.5-7.0 mg/dL	主に痛風を調べる検査です。肥満や過度の飲酒、プリン体が多く含まれる食品の取りすぎなどによって高値になります。
電解質	ナトリウム [ Na ]	136-147 mEq/L	生命活動をスムーズに行うための成分です。 ナトリウムとクロールは体の水分の保持や浸透圧を調整し、カリウムは神経や筋肉の働きを調整しています。
	カリウム [ K ]	3.6-5.0 mEq/L	
	クロール [ Cl ]	98-109 mEq/L	
	カルシウム [ Ca ]	8.5-10.2 mg/dL	
糖代謝関連	グルコース	70-109 mg/dL	糖尿病の診断や血統コントロール指標に用いられ、高値の状態が続く場合は糖尿病が疑われます。
	HbA1c [ NGSP ]	4.6-6.2 %	糖尿病の診断や血糖コントロール指標に用いられ、1~2ヵ月間の血糖値を反映します。高値の場合は1~2ヵ月間高血糖が多かったことを意味します。  糖尿病学会の方針により、平成24年4月以降は旧(JDS)値と新(NGSP)値を併記します。

	項目名 [ 略称 ]	基準値	一般的な検査の意味
炎症	CRP定量	0.30以下 mg/dL	炎症時に急速に増加する急性反応物質のひとつです。感染症、自己免疫疾患、手術後などで上昇します。
甲状腺	TSH	0.500-5.00 $\mu$ IU/mL	甲状腺ホルモンの合成と分泌を促進するホルモンです。甲状腺機能亢進症で減少します。
	遊離T3 [ FT3 ]	2.30-4.30 pg/mL	甲状腺ホルモンのひとつで、甲状腺機能亢進症で上昇、甲状腺機能低下症で減少します。
	遊離T4 [ FT4 ]	0.9-1.70 ng/dL	甲状腺ホルモンのひとつで、甲状腺機能亢進症で上昇、甲状腺機能低下症で減少します。
尿定性	比重	1.005-1.030	尿が濃縮しているか、薄い尿かを調べます。 1.030以上(濃縮尿)→脱水症、造影剤の混入など 1.006以下(薄い尿)→水分過剰摂取、尿崩症など
	pH	5.0-7.5	尿が酸性か、アルカリ性かを調べます。 通常は弱酸性でpH6.0位ですが、食べ物でも変化します。 アルカリ性の尿は尿路感染症の可能性がありま
	蛋白定性	(-)	尿中に蛋白が出ているかを調べます。 腎疾患(ネフローゼ症候群、糸球体腎炎など)で(+)になります。 健康人でも運動後などに(+)になることがあります。
	糖定性	(-)	尿中に糖(ブドウ糖)が出ているかを調べます。 糖尿病の指標となります。
	ケトン体	(-)	糖代謝異常により尿中に出現します。重症糖尿病の時(+)になります。 飢餓状態、空腹状態でも(+)になることがあります。
	潜血反応	(-)	尿中に出血した血液の有無を調べます。 腎・尿路系からの出血で(+)になります。
	ウロビリノーゲン	(+-)	肝臓機能障害で(+)になります。飲酒、便秘、運動後でも(+)になることがあります。 (-)は閉塞性黄疸の疑いがあります。
	ビリルビン	(-)	肝臓機能障害で(+)になります。 服用している薬の影響で(+)になることがあります。
尿定量	尿ナトリウム		摂取した食事の中の塩分の指標です。
	尿カリウム		摂取した食事の中のカリウムにより変動します。
血球算定	赤血球数 [ RBC ]	男 427-570 $\times E4/\mu L$ 女 376-500 $\times E4/\mu L$	血液の細胞成分のひとつで、赤血球数は赤血球の数を表します。血色素量は赤血球の中にある蛋白で酸素を運搬します。ヘマトクリットは血液中に含まれる赤血球の割合を示すものです。 併記されているMCV、MCH、MCHCは赤血球数・血色素量・ヘマトクリットから計算した値で、貧血タイプを推測します。 高い場合は脱水や、赤血球増多症が疑われます。
	血色素量 [ Hb ]	男 13.5-17.6 g/dL 女 11.3-15.2 g/dL	
	ヘマトクリット値 [ Ht ]	男 39.8-51.8 % 女 33.4-44.9 %	
	血小板数 [ PLT ]	男 13.1-36.2 $\times E4/\mu L$ 女 13.0-36.9 $\times E4/\mu L$	血液の細胞成分のひとつで、血小板の数を表します。出血した時に血を固め、止める働きをします。減少すると出血しやすくなり、多すぎると血栓ができやすくなります。
	白血球数 [ WBC ]	男 3900-9800 / $\mu L$ 女 3500-9100 / $\mu L$	血液の細胞成分のひとつで、白血球の数を表します。体外から侵入してくる細菌やウイルスなどを、排除する働きがあります。 細菌感染や炎症で高くなり、ウイルス感染症などで低くなります。
末梢血液像	白血球%	下記参照	白血球は好中球、リンパ球、単球、好酸球、好塩基球に分類されます。健康な状態では一定の割合で構成されるので、割合の変化から病気が推測できます。
	好中球	40.0-74.0 %	好中球は核の形によって杆状好中球と分葉核球に分類されます。 感染症や炎症などで増加します。
	リンパ球	18.0-59.0 %	免疫機能に関わっています。ウイルス感染などで増加します。
	単球	0.0-8.0 %	免疫系・炎症系に作用します。結核など感染症で増加します。
	好酸球	0.0-6.0 %	アレルギー反応に関わっています。花粉症や喘息、寄生虫症などで増加します。

好塩基球	0.0-2.0 %	アレルギー反応に関わっています。
------	-----------	------------------